

第19回委員会

日時：2007年2月10日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：永田委員長，荻原，平田，古川，増井，渡邊

<事務局>磯部

[配付資料]

- 1．ISBD Consolidated edition, Jan. 2007 draft（抜粋）（11ページ-A4，事務局）
- 2．Coyle & HillmannによるRDA批判論説の抜粋・訳（未完）（5ページ-A4，古川委員）
- 3．Report of the RDA Special Session at DC2006（2ページ-A4，古川委員）
- 4．ALAによるRDA第 部案・パート A 案へのコメントの要旨（増補改訂版〔・未完〕）  
（4ページ-A4，古川委員）
- 5．DCMI Abstract Model（8ページ-A4，永田委員長）
- 6．<indec>について（3ページ-A4，荻原委員）
- 7．第30期目録委員会記録No.17（2ページ-A4，事務局）
- 8．第30期目録委員会記録No.18（2ページ-A4，事務局）

[報告・連絡事項]

特になし

[検討事項]

- 1．ISBD統合版について  
永田委員長から、資料1に基づき、韓国国立中央図書館からの照会事項について説明があった。協議の結果、以下の回答を行うこととした。
  - ・（照会1）逐次刊行物のタイトル変遷について、IME-ICC4のWGより要望した事項（各国の文化的・言語的事情を吸収した基準とするべき）が最新の草案に取り入れられていないことへの対応  
（回答）引き続きCJK各国からの要望を出すことが望ましい。
  - ・（照会2）GMDの”Printed text”（前草案では”Text”）の日本語訳  
（回答）「印刷文字資料」が適切な訳語である。
- 2．CONSERをめぐる動向について

渡邊委員から、CONSERの記述標準変更方針（「アクセスレベルレコード」の適用）に対するT. Delsey（RDA編集者）のコメントについて紹介があった。

続いて、電子ジャーナルの書誌コントロールに関する問題点等について意見交換を行った。

### 3．RDAについて

古川委員から、資料2～4に基づいて紹介があった。

- ・資料2及び3は、D.Hillmannら主にDCコミュニティを基盤とする論者からの、RDAに対する根本的批判である。Hillmannは、モデル・原則の不在、情報源からの転記に頼った識別機能の固守、問題がある関係性の区分、アクセスポイントにおける「primary / secondary」概念の固守、を批判している。また、M. Nilssonは、「リソース」「記述」といった基本的概念の曖昧さを問題にしている。
- ・資料4は、以前（第13回委員会）配布した資料の増補版で、ALAによるRDA批判の要旨である。特に、第6，7章関連事項について紹介があった。

### 4．DCMIアブストラクトモデルについて

永田委員長から、資料5に基づいて紹介があった。DCが扱う「リソース」と「記述」について、プロパティや値の構造を分析したモデルである。

作成の背景、RDFとの関係等について、質疑があった。

### 5．<indec>について

荻原委員から、資料6に基づいて紹介があった。電子商取引におけるメタデータの相互運用を図るためのデータモデルである。

RDA関係文書において参照されている背景等について、質疑があった。

### 6．今後の目録規則の方向性について

一次情報のデジタル化が進展する中でのメタデータの役割、今後の規則が拠るべきモデル、等について若干の意見交換を行った。

次回の委員会の予定

3月17日（土）

以上